

令和 6 (2024) 年度上半期実績と 主な取組について

令和 7 年 1 月 1 6 日 平塚市病院運営審議会
平塚市民病院



令和6年度上半期の取組

はじめに

令和6年度は病院の最重点目標として

「新入院患者数」（令和6年度目標値10,300人）

を達成するために取り組みました。

令和6年度上半期に取り組んだ内容

- ①院内情報共有の強化
- ②高度医療機器
 - 循環補助用心内留置型ポンプカテーテル導入
 - hinotori手術の拡大と症例見学受入開始
- ③キッズ病院お仕事体験の開催（初開催）（7月）
- ④1日看護体験の病棟勤務見学を再開（8月）
- ⑤職員育成の強化

①院内情報共有の強化

幹部ミーティング開始と院内ポータル活用

令和6年4月～

- 幹部(管理者、病院長、副病院長)で「方向性ミーティング」を
毎朝実施
→前日の入退院、今朝の入院患者数、前日の出来事の情報共有
- 院内ポータルを活用して、病院長のコメント、
新入院患者数などを院内に発信
→患者数、経営指標などを毎日更新

②高度医療機器

循環補助用心内留置型ポンプカテーテル導入

令和6年9月

循環補助用心内留置型ポンプカテーテル(インペラ)導入

●心原性ショックの患者に対して、心臓の代わりとなって全身に血液を送る装置

相模川以西の県内で2施設目

循環器領域の救急体制を充実



②高度医療機器

hinotori手術の拡大と症例見学受入開始①

令和6年8月

ロボット支援下肝切除術の初例施行

令和6年9月

ロボット支援下膵切除術の初例施行



診療科	術式	件数(R4.10~R6.11)
泌尿器科	前立腺全摘除術	64件
	仙骨脛固定術	71件
	腎摘除術	3件
	腎尿管全摘除術	2件
	腎部分切除術	4件

診療科	術式	件数(R4.10~R6.11)
消化器外科	直腸切除術	18件
	食道悪性腫瘍手術	3件
	肝切除術	4件
	膵切除術	1件

合計 170件

hinotori手術の拡大と症例見学受入開始②

平塚市民病院は、令和6年3月に

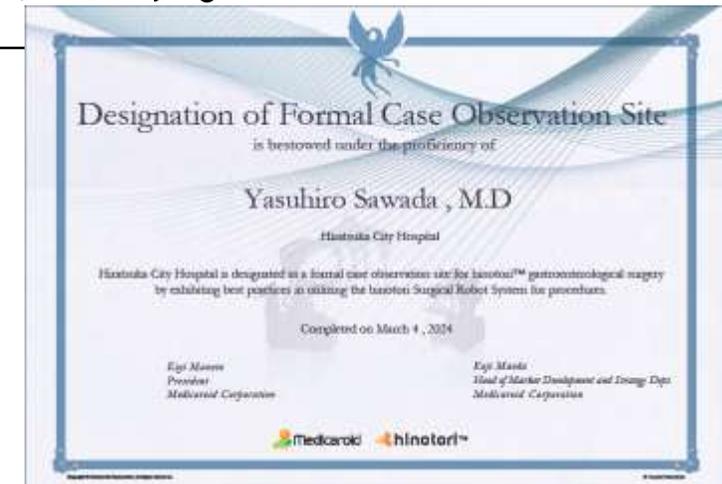
hinotoriの「仙骨膣固定術症例見学認定施設」

に認定されました。

- 症例見学施設とは、指導者として学会から認定された医師が所属し、安全に手術を遂行できる技量及び設備を有する施設が認定されます。今後、新たに手術を実施する医療機関の症例見学を受け入れます。

令和6年9月

最初の症例見学を受け入れました。



③キッズ病院お仕事体験の開催

キッズ病院お仕事体験の開催（初開催）

7月27日

小学生向け体験イベント

キッズ病院お仕事体験2024「救命救急センター24時」を開催

●市内外から小学校4～6年生の子どもと保護者18組36人が参加

応募倍率4.8倍

【主な体験内容】

- 手指消毒
- 心臓マッサージ
- 聴診
- 超音波
- DMA T車見学
- 気管挿管
- 血圧測定



④ 1日看護体験

1日看護体験の病棟勤務見学を再開

8月9日、22日

コロナ期間にはできなかった

1日看護体験(中学生、高校生対象)の病棟勤務見学を再開

※県内外から37人が参加



院内での特定看護師の育成

9月

昨年10月から開始した看護師特定行為研修機関としての1期目の研修が修了しました。

- 救急領域パッケージ：2人
- 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル：2人

まとめ

今後

“選ばれる病院” となることで

新入院患者の更なる受入れに努めます。

令和6年度上半期実績

最初に

令和6年度は、引き続き

「新入院患者の確保」(R6年度目標:10,300人)

と

「DPC入院期間Ⅱを意識した在院日数管理」

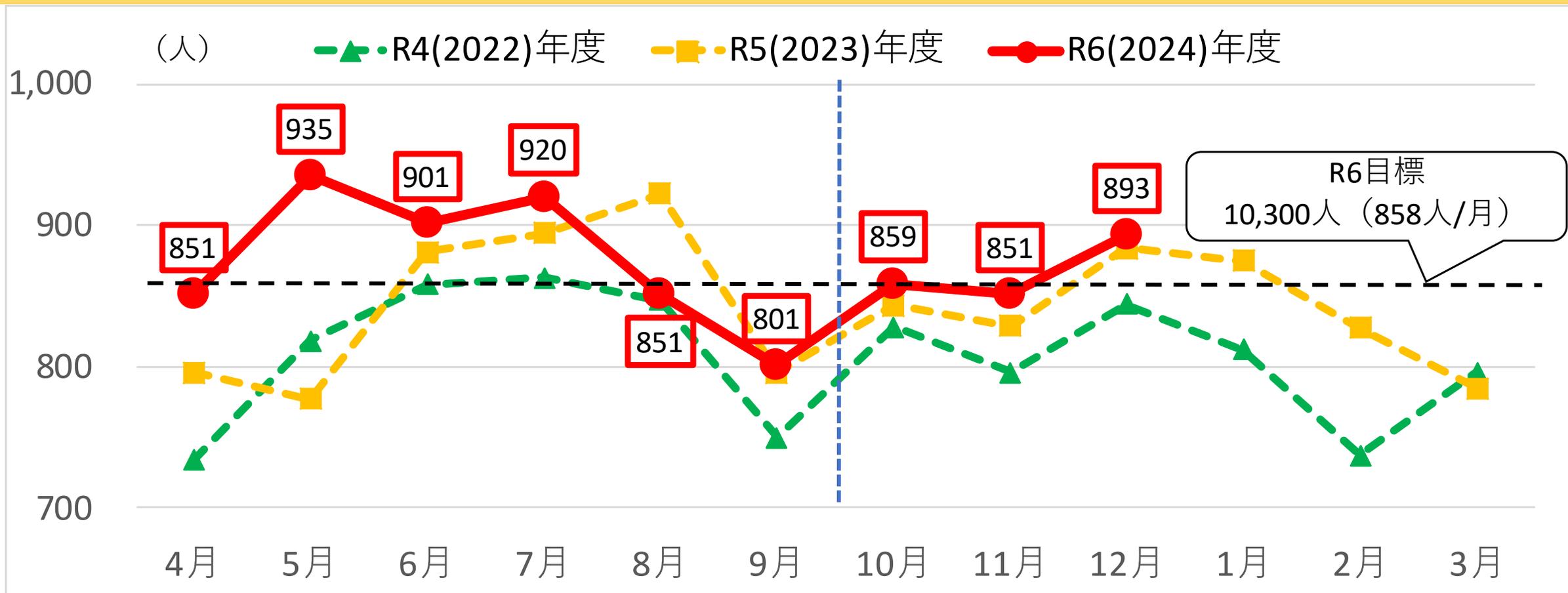
を重視しました。

主な臨床指標の前年度比較

	令和5年度 上半期	令和6年度 上半期	差
新入院患者数	5,066人	5,259人	+193人 (+3.8%)
1日平均入院延患者数	294.4人	306.9人	+12.5人 (+4.2%)
1日平均外来延患者数	753.8人	766.8人	+13.0人 (+1.7%)
病床稼働率(許可病床ベース)	71.8%	74.9%	+3.1ポイント
手術件数	2,031件	2,294件	+263件 (+12.9%)
救急搬送件数	5,218件	4,915件	▲303件 (▲5.8%)
救急搬送入院患者数	1,643件	1,626件	▲17件 (▲1.0%)
紹介率	86.3%	85.4%	▲0.9ポイント
逆紹介率	86.4%	87.0%	+0.6ポイント

令和6年度上半期実績（入院）

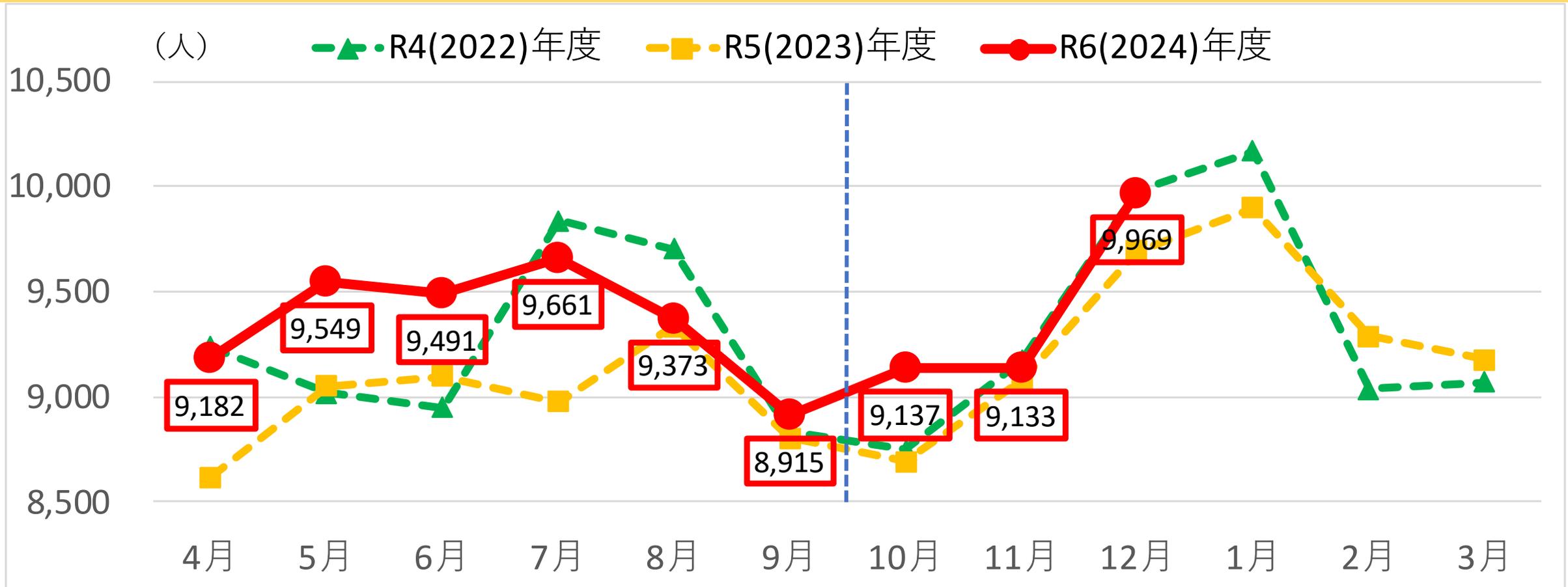
新入院患者数の推移



令和6年度上半期は、令和5年度よりも新入院患者数が増加したが、4、8、9月は目標未達成

令和6年度上半期実績（入院）

入院延患者数の推移

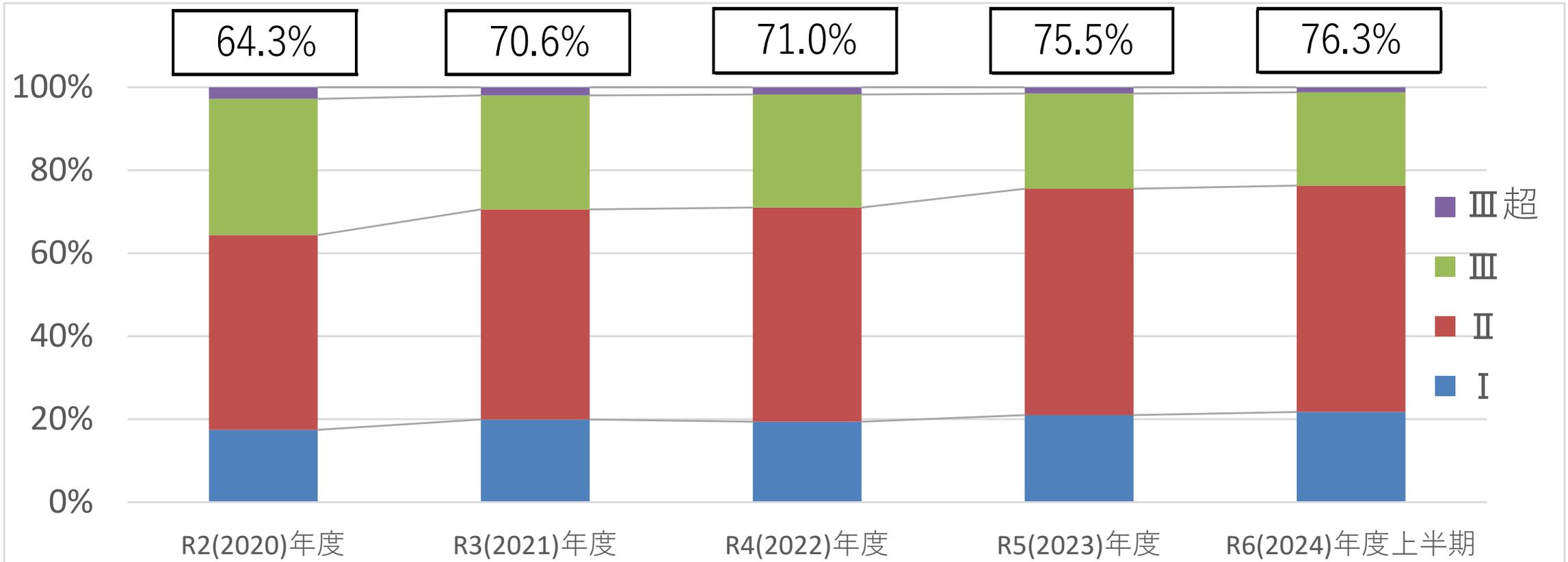


令和6年度上半期の延べ患者数は、令和5年度上半期より
2,288人増加

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率

D P C制度は、入院診療報酬請求の制度で、病名や手術の有無等により、分類わけされ、在院日数に応じて1日当たりの点数が定められている。入院期間Ⅱまでであれば、その治療に対する平均的な収入が得られる。

D P C入院期間Ⅱ以内での退院率が増加



令和6年度上半期実績（入院）

診療科別新入院患者数比較

R5-R6患者増減数が大きい診療科

	令和5年度 上半期	令和6年度 上半期	差	備考
病院全体	5,066人	5,259人	+193人 (+3.8%)	
眼科	120人	222人	+102人 (+85.0%)	常勤医師1人増 下半期は外来手術に移行
脳神経外科	159人	237人	+78人 (+49.1%)	
皮膚科	120人	163人	+43人 (+35.8%)	
消化器内科	734人	669人	▲65人 (▲8.9%)	
小児科	396人	364人	▲32人 (▲8.1%)	
呼吸器外科	52人	26人	▲26人 (▲50.0%)	

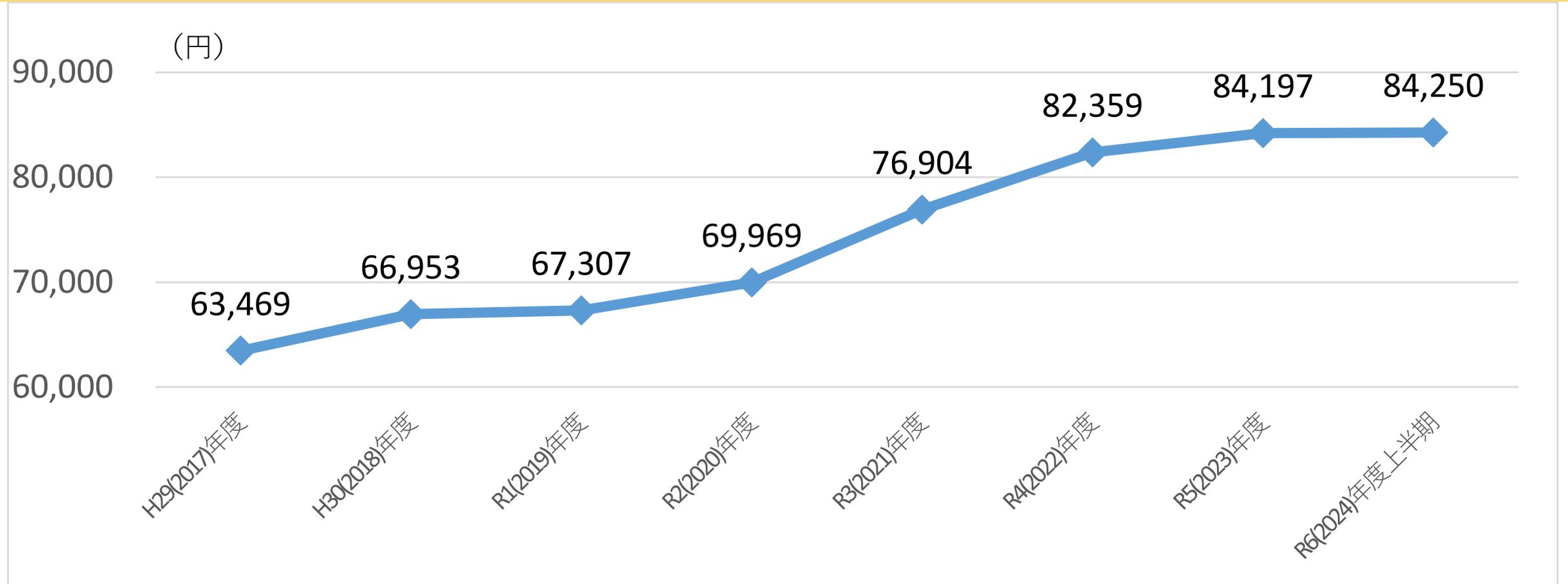
令和6年度上半期実績（入院）

疾患別入院実患者数比較

R5-R6患者増減数が大きい疾患

	令和5年度 上半期	令和6年度 上半期	差
白内障、水晶体の疾患	120人	215人	+95人 (+79.2%)
てんかん	28人	76人	+48人 (+171.4%)
心不全	101人	130人	+29人 (+28.7%)
穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性 疾患	63人	39人	▲24人 (▲38.1%)
その他の感染症（真菌を除く。）	108人	78人	▲30人 (▲27.8%)
子宮頸・体部の悪性腫瘍	75人	34人	▲41人 (▲54.7%)

入院診療単価の推移



入院診療単価は微増、収入では手術料が増加

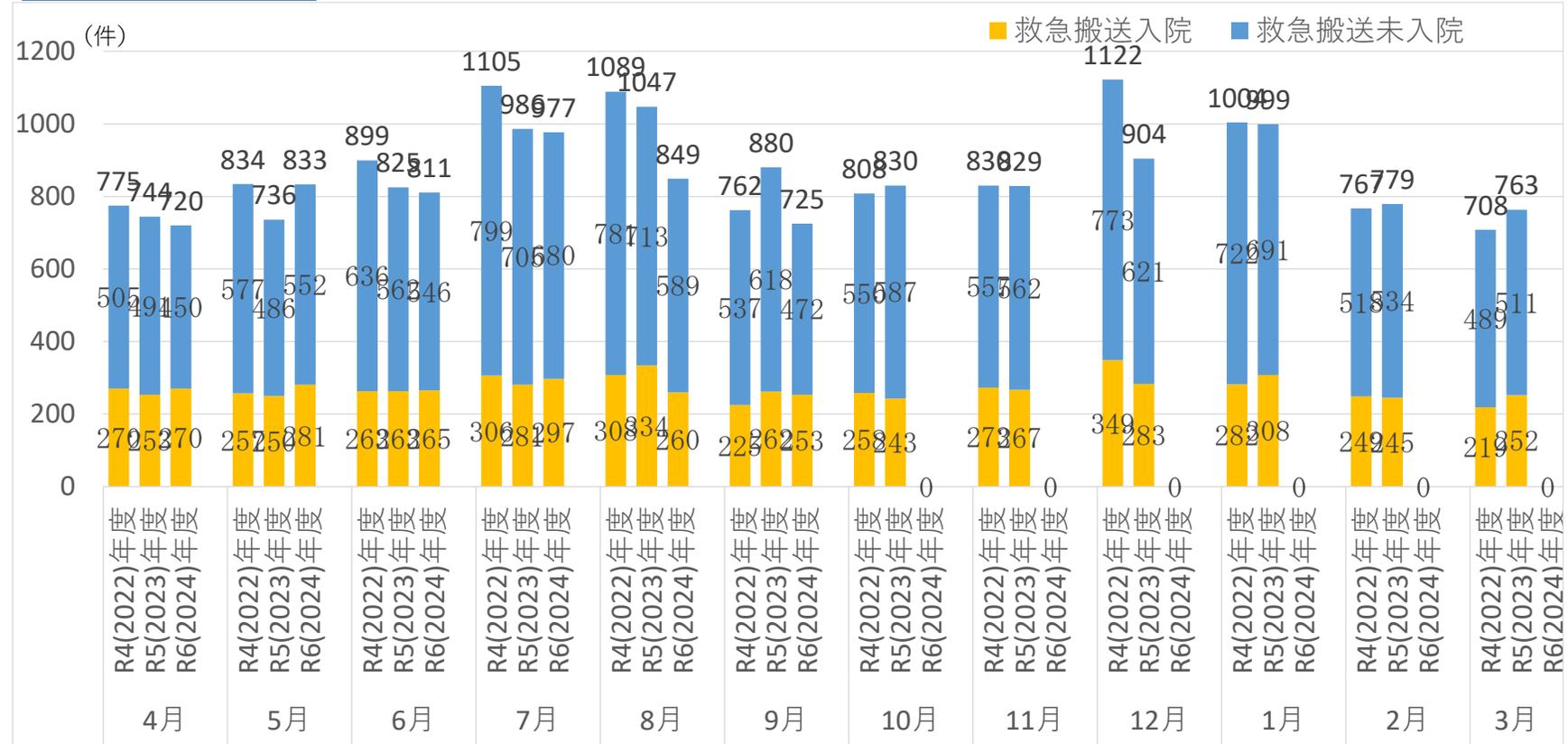
令和6年度上半期実績（入院）

救急搬送受入の推移

上半期実績



月別実績



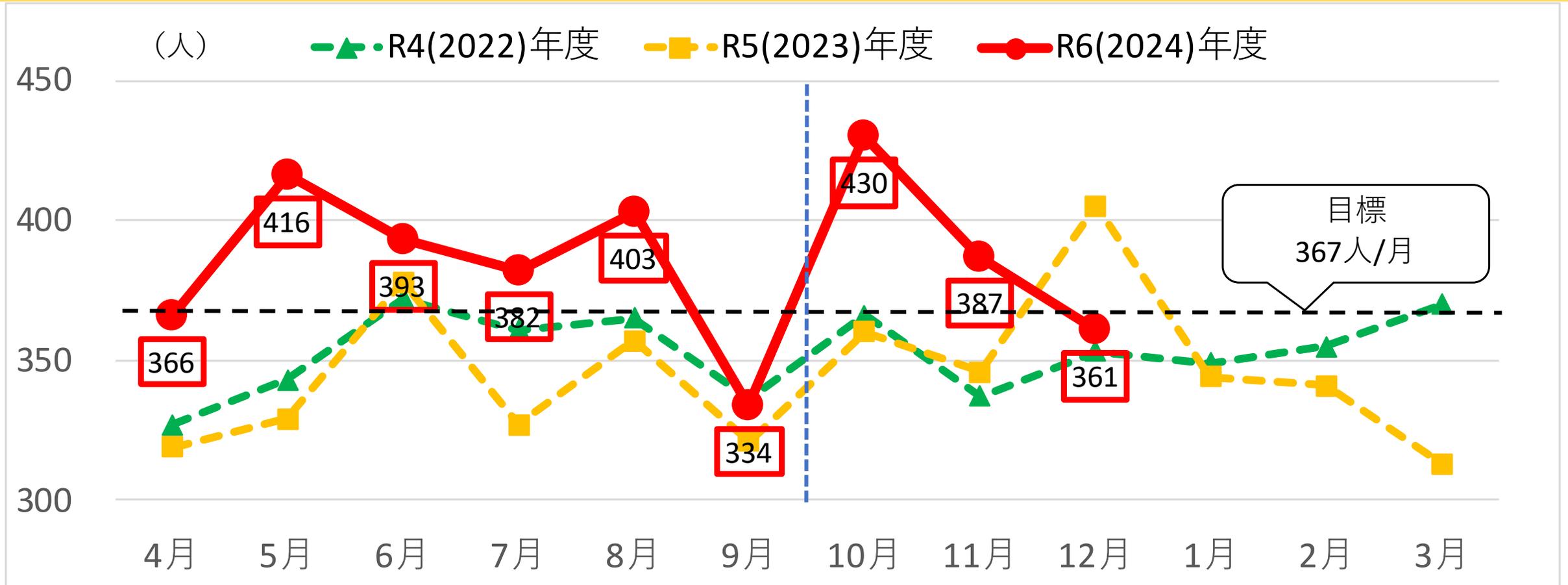
救急搬送入院率

31.5%(R5上) ⇒ 33.1%(R6上)

救急搬送件数、救急搬送入院患者数が減少
救急搬送入院率は増加

令和6年度上半期実績（入院）

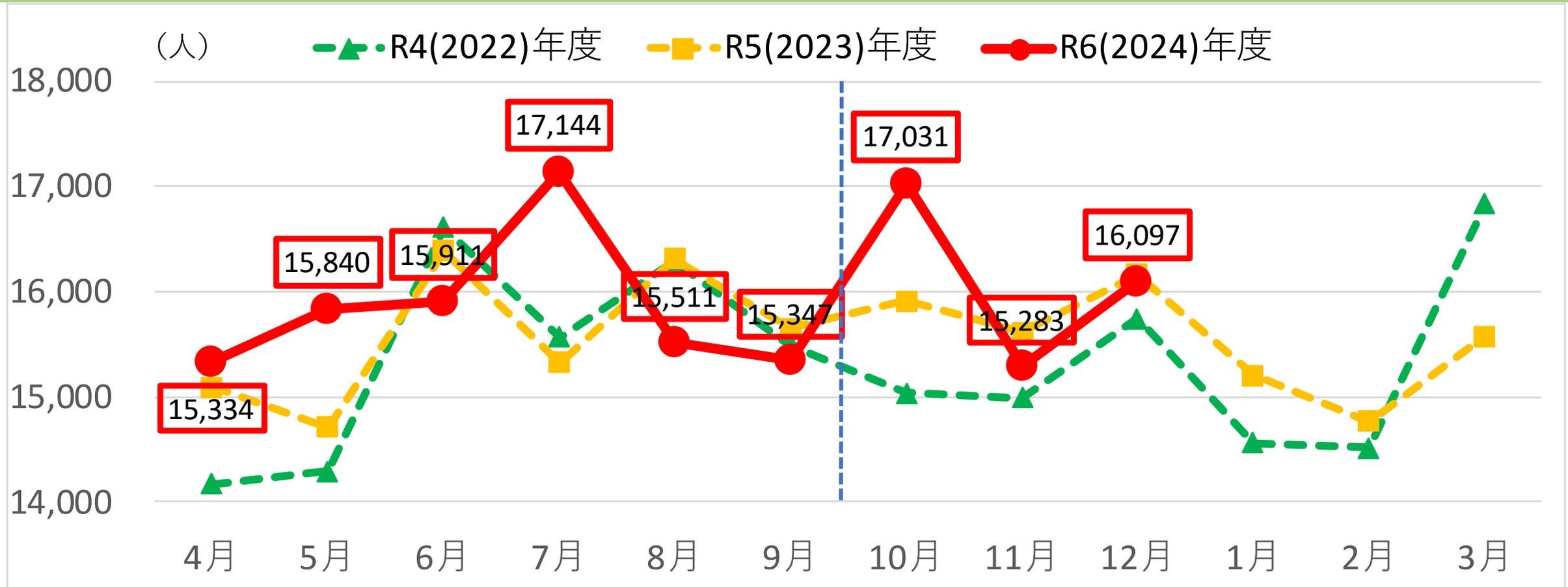
手術件数の推移



令和6年度上半期は、令和5年度より263件増加

令和6年度上半期実績（外来）

外来延患者数の推移



令和6年度上半期は、外来延べ患者数1,614人増加

令和6年度上半期実績（外来）

診療科別外来延患者数比較

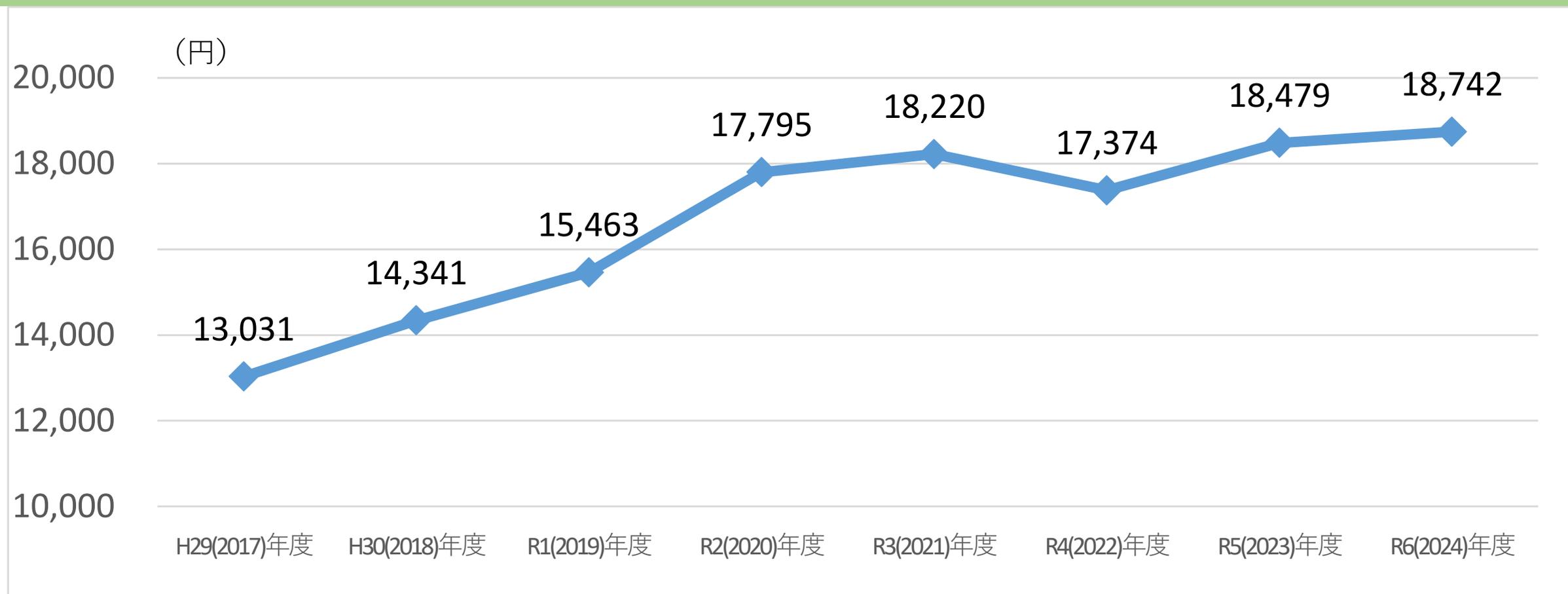
R5-R6患者増減数が大きい診療科

	令和5年度 上半期	令和6年度 上半期	差	備考
病院全体	93,473人	95,087人	+1,614人 (+1.7%)	
皮膚科	7,378人	8,227人	+849人 (+11.5%)	
眼科	2,968人	3,548人	+580人 (+19.5%)	常勤医師1人増
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	1,907人	2,401人	+494人 (+25.9%)	
循環器内科	5,020人	4,801人	▲219人 (▲4.4%)	7月から常勤医師2人減
消化器外科	6,038人	5,606人	▲432人 (▲7.2%)	常勤医師1人減
形成外科	2,364人	1,837人	▲527人 (▲22.3%)	常勤医師1人減

常勤医師の増減の影響が大きい。

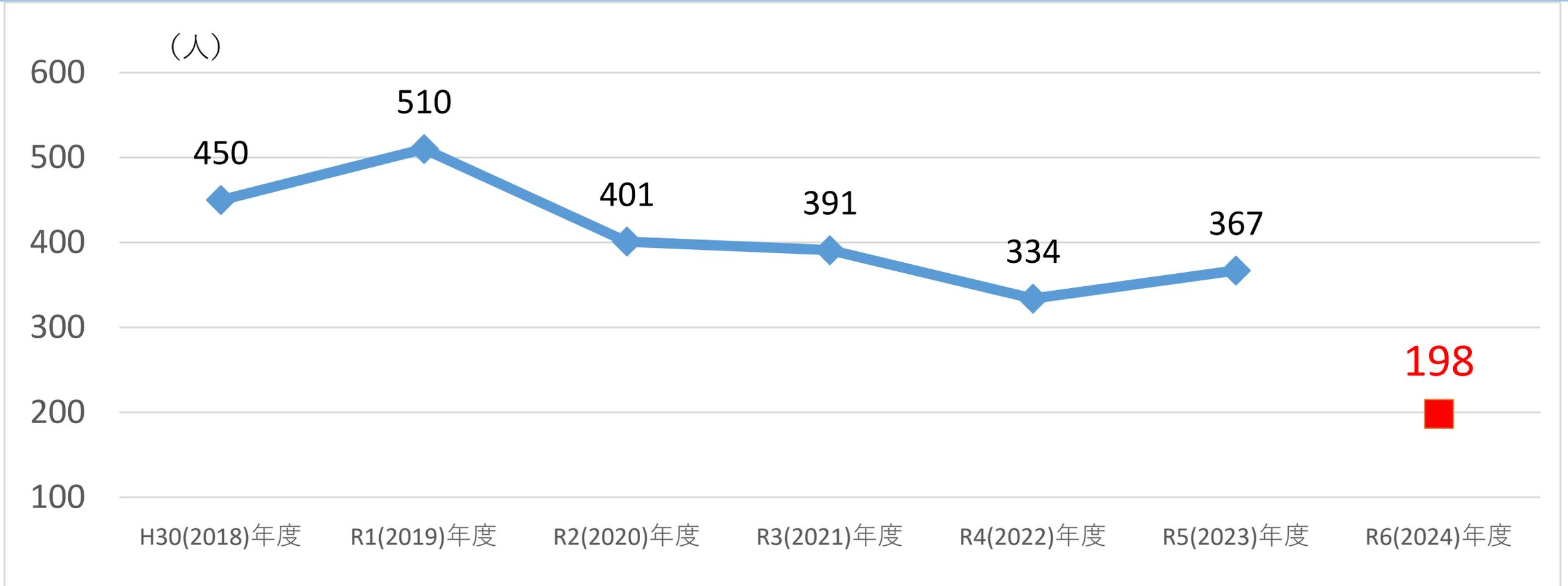
令和6年度上半期実績（外来）

外来診療単価の推移



外来診療単価が増加、注射料の増加が大きい

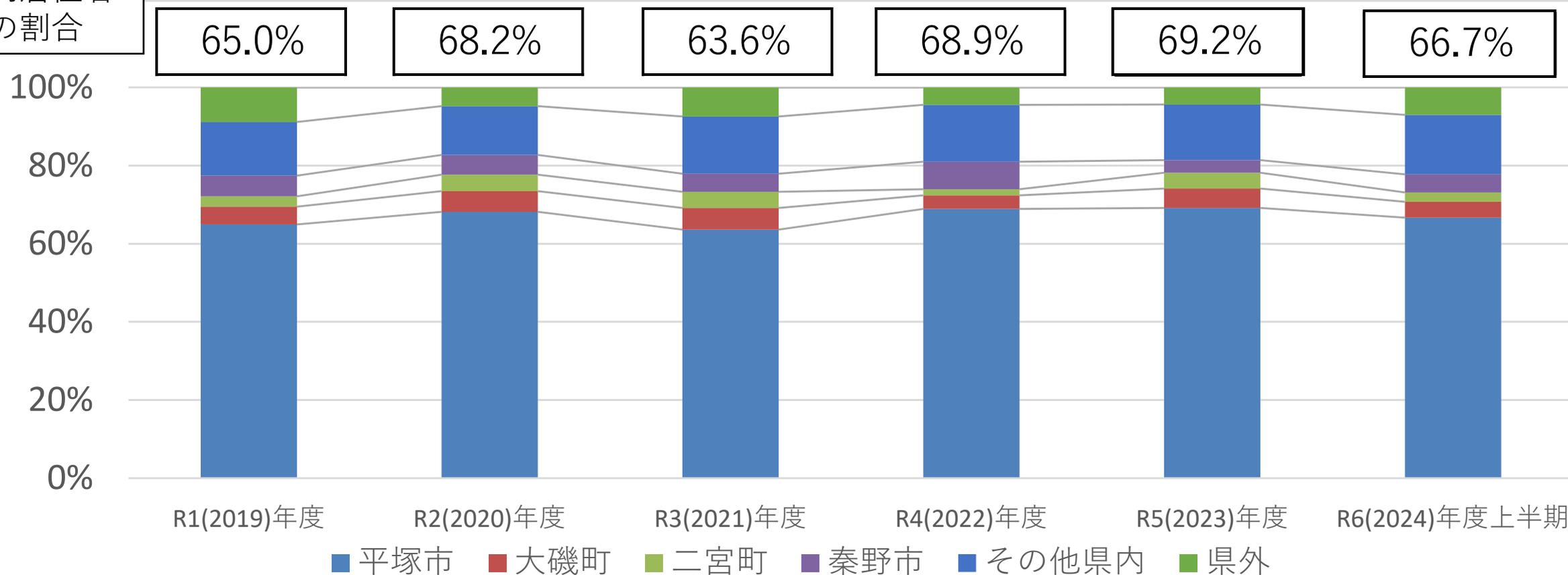
分娩件数（子どもの数）の推移



予定帝王切開の増加により分娩数が増加
前年度上半期比+40件

居住地別出生数（母体数）の推移

市内居住者の割合



市外居住者の割合が増加

主な経営指標の前年度比較

	令和5年度 上半期	令和6年度 上半期	差
医業収益	61億8,200万円	66億2,900万円	+ 4億4,700万円 (+ 6.8%)
入院収益	44億200万円	47億3,200万円	+ 3億3,100万円 (+ 7.5%)
外来収益	16億7,800万円	17億8,200万円	+ 1億400万円 (+ 6.2%)
医業費用	70億3,000万円	76億1,300万円	+ 5億8,300万円 (+ 8.3%)
給与費	35億1,300万円	37億400万円	+ 1億9,100万円 (+ 5.4%)
材料費	17億1,500万円	19億5,800万円	+ 2億4,300万円 (+ 14.2%)
医業収支比率	87.9%	87.1%	▲0.8ポイント
経常収支比率	95.8%	94.3%	▲1.5ポイント

入院診療単価の増加で収益は増加
費用増加の影響で経常収支比率は悪化

まとめ

- 新入院患者が増加し、収益が増加しましたが、費用が収益以上に増加しました。
- 特に紹介患者や救急受診患者の増加を図り、新入院患者を更に増やすことが必要です。